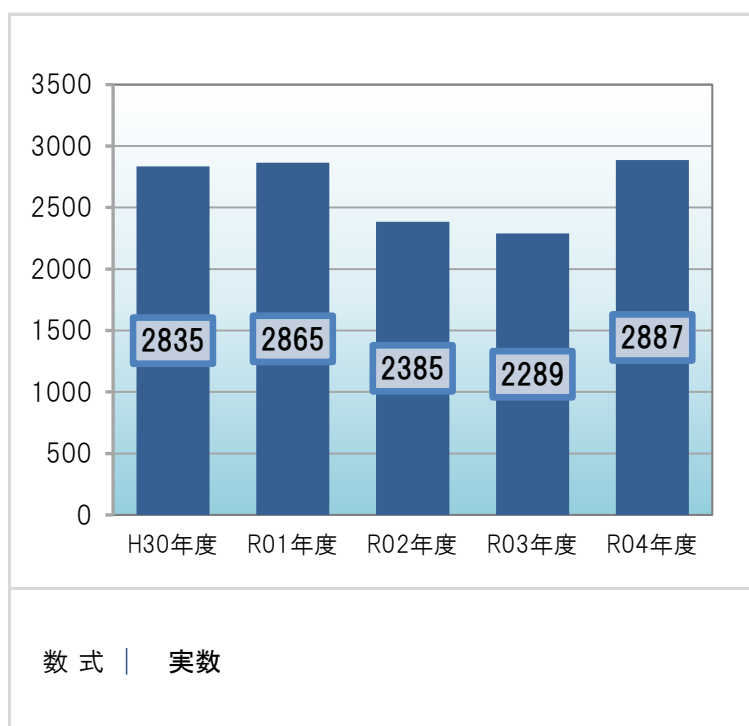


51 救命救急患者数

● 項目の解説

国立大学病院には高度な三次救急医療を担う社会的責任があります。三次救急医療とは、生命に危険をもたらす重篤な状態にあって高度な医療を必要としている患者のための医療です。診療を行うには、高度な技術と経験、設備が必要となり、その体制と実績を表現する指標です。

● 当院の実績



単 位 | 件数

期 間 | 年間

備考

当院救急部では、各診療科の専門医が常駐している大学病院の長所を生かし、コーディネーター型救急診療体制を整備しています。また、重症患者を受け入れるだけでなく、DMAT(災害派遣医療チーム)に参加し、東日本大震災に医療チームを派遣するといった活動も行っています。

令和4年度国立大学病院平均値
(100床あたり) 319.84人
(令和4年度当院 100床あたり 270.83人)

● 定 義

DPCデータを元に算出した、救命救急患者の受け入れ数です。ここでの「救命救急患者」とは医科診療報酬点数表における、「A205 救急医療管理加算」または「A300 救命救急入院料」、「A301 特定集中治療室管理料」、「A301-2 ハイケアユニット入院医療管理料」、「A301-3 脳卒中ケアユニット入院医療管理料」、「A301-4 小児特定集中治療室管理料」、「A302 新生児特定集中治療室管理料」、「A303 総合周産期特定集中治療室管理料」を入院初日に算定した患者を対象にしており、救命救急センターを持たない施設も評価対象に含めることのできる指標としています。救急外来で死亡した患者も含まれます。